

新聞會

第 20 号

巡遊卒ハ人皆無益のやうと思ふこと
 其功能實ニ少ク別て痴病を治ハぬ
 既云月五日午前三時大阪天神橋ニ投身有
 規則の如ク陰陽両体拾り合せて流し居たり
 巡遊其外五六名にて引揚療治を加ヘり
 蘇生志あり男ハ西京笹屋所飯森宗吉とて
 廿一の若盛り女ハ同所中立賣中島某が母の
 志津四十二年の年増後家三年前ハ馴合ハ
 金と手づまり身ハ投一と色ハ思案外の外
 ちくく廿歳斗の身と以て初老を
 越たる様安んとして死んせやハ
 痴漢の親至此難病を救ひし由
 全ク巡回散の功能なるげや
 四十二廿六ハ割に當りたれハ
 廿四廿二天地の故安ん
 一進ダ子救うめんこさ
 海島橋まゝに於て
 本文ハ兩人の書置あれど思ふく



八尾善太郎
 海島橋まゝに於て

